

**令和元年度
宮崎県職員採用試験【大学卒業程度（水産）】**

専門論文試験課題

<課題>

漁業センサスによると、本県漁業就業者数は平成15年の3,749人から平成25年には2,677人と、10年間で1,000人以上減少しており、漁業の担い手対策は、水産物の供給及び漁村地域の機能維持を図る上で、喫緊の課題となっています。

このような中、近年本県では毎年50名前後が漁業に就業していますが、多くはまき網漁業やかつお一本釣漁業、まぐろ延縄漁業、定置網漁業等といった被雇用型の漁業経営体（法人）への就業であり、主に5トン未満の漁船で操業を行う、小型底曳き網漁業や曳き縄漁業、一本釣漁業、延縄漁業等の独立自営型の沿岸漁業への新規就業者はごくわずかです。

その理由としては、新たに沿岸漁業を営むには漁船や漁具といった大きな初期投資が必要であることや、同じ漁場、資源を共同で利用するという漁業の特性の影響などが挙げられます。

そこで、今後の沿岸漁業の担い手確保・育成において重要となる課題とその解決策について、あなたの考えを述べなさい。